

24. <火山に消えた下水道>

「有珠山は2000年3月31日13時10分頃に噴火を開始しました。1977年の噴火以来、23年ぶりの噴火です。・・・」インターネットで「有珠山」を検索したら、4年程前の生々しい光景がそのままフリーズされて画面上に現れ、ふと当時のことを思い出しました。その日の夜、この噴火をテレビニュースで見た時、思わず「あ！管きよが火山になっちゃた！」と小さく声をあげました。

噴火の2年程前、町からの依頼で2泊3日の処理場の機能診断を実施しました。今では処理場の細かい状況はあまり覚えていませんが、ここの下水道は洞爺湖の水質保全を目的に洞爺湖温泉街の汚水を一滴たりとも湖に流さないことを主な目的に計画されたと記憶しています。汚水と温泉排水を別々の管きよで集め、2km程の山岳トンネルで山麓の虻田町市街地まで送水する、汚水は市街地汚水と併せて処理し、温泉排水はそのまま噴火湾へ放流するという構造です。処理場を検査したら、予想通り(?)コンクリート腐食が激しいので、温泉排水の影響だろうと管きよの踏査も追加しました。管きよを遡り、汚水が圧送されてくる山岳トンネル出口近くのマンホールを開けてみました。汚水管きよは見事に腐食していましたが、温泉排水の管きよは微塵の腐食もありません。「え！そんな？」居合わせた一同は思わず顔を見合わせました。事前の資料調査で温泉成分には硫化物イオンが含まれないことは分かっていたのですが、それでも温泉排水だから汚水管と同じく腐食しているだろうと思っていたので予想外でした。改めて「硫化水素の発生には、硫酸イオンと温度と無酸素状態のほかに細菌の増殖に必要な栄養源が必要である」という記述を思い出し、「汚水」の影響の大きさを再認識した次第です。

その後、追加実施された詳細調査により「洞爺湖岸の管きよや圧送ポンプ場流入ゲートなどの金属部分も腐食しており早急が必要である」という結果も出ました。それ以後の対応は担当部署が違ったので詳しく知りませんが、何とか更新工事が認められそうだという噂を聞いて安堵していたところへの有珠山噴火の報でした。懐かしい風

景に凄まじい噴煙が重なって写っていました。続報では、災害復旧には JS も協力させて頂き、温泉街の排水は湖岸に設置した施設で処理し、反対側の昭和山脇を通すルートで放流することにしたそうで、山岳トンネルは廃線になったようです。遠い将来、下水道遺跡として発掘されるかも・・・。

30年近く下水道の維持管理に関わる中で随分多くの施設腐食現場を見てきました。ここよりひどい腐食状況や面白い原因の事例もありましたが、これほど見事に腐食原因を対比して実感できる現場はありませんでした。診断結果の報告を終えて役場を出たら、何時の間にか降り積もった乾いた雪が街灯の明かりに白く浮び上がっているのが印象的でした。もし、チャンスがあればその後の姿を見、当時のご苦勞をお聞きしたいと思っています。(只今リハビリ中で未だ現場に行けません。新ネタはもう少しお待ちください。

< 川口 幸男 >

※No. 28号(2004/4/27)に掲載